

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月3日
札幌市立厚別東小学校

1 本年度の重点目標

響きあい 一人一人のよさや可能性が伸びる学校づくり

2 本年度重点項目

<p>(1) 学ぶ力の育成</p> <p>①「主体的な学び」「自治的な学び」を</p> <p>②課題探求的な学習の場の創造</p> <p>(2) 豊かな心の育成</p> <p>①多様性を認め合う</p> <p>②規範意識を育てる</p>	<p>(3) 健やかな体の育成</p> <p>①体力・健康増進に関わる意欲を</p> <p>②基本的な生活習慣の徹底</p> <p>③情報モラル教育の推進</p>
--	---

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	① 児童が主体的・対話的に学ぶ課題探求的な学習の場をつくることのできたか。	A	今年度は、学習場面での「主体的な学び」「自治的な学び」を生む場を創出する授業構築に取り組んだ。職員全員で、基礎基本的な内容の定着を図るための授業となっているか、学習の中で子どもたちの関わりが生まれているかなど、研修を重ねた。児童アンケートでは、関わり合うことで学ぶ価値を感じている児童が多く、日常の学習の積み重ねと感じている。 今後も、課題探求的な学習となっているか研鑽を重ね、主体的・対話的に、児童主体の学習となる授業づくりを目指した研修を積み重ねていく。	A	A
	② 学年専科や少人数指導を生かしたり、指導方法を工夫したりして、個に応じた学習を行うことのできたか。	A	すべての学年の算数において「TT指導」を行った。3学年以上では「少人数指導」として、小集団に分かれての学習も行い、個に応じた指導を行うことができた。また、4学年以上では「学年専科」を取り入れ、学年全体で子どもたちの学習指導にあたることができた。複数の目で、子どもたちの学習に関わり、個に応じた指導・学習につなげることができた。 次年度も、複数の教員が関わるなど、授業形態の工夫を継続していきたい。	A	A

学校関係者評価委員による意見

- ・成果及び改善の方策通り次年度も継続し、よりよい環境をつくっていただきたい。
- ・子どもたちに対するアンケート項目にも温かい眼差しが感じられた。今後もこのような目線を大切に子どもたちに向き合ってほしいと感じた。
- ・算数などにおける TT 授業は職員の負担も大きく、コミュニケーションもとらなければならず大変なことも多いと思うが、東小学校のきめ細かい指導の良さでもあるので頑張してほしい。
- ・主体性をもって学ぶ姿勢が身に付いていると進学しても社会人になっても乗り越えていけるといいますので、素晴らしいと感じている。
- ・少人数指導は先生方の負担も大きいと思うが、継続してほしい。

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	① 命を大切にすること、多様性を認め合うことを前提に、いじめ防止や人間尊重の教育を推進することができたか。	A 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを目指した。そのために教職員が一人一人の子ども理解に努め、自他のかけがいのない命を大切にす る指導を徹底してきた。そして、子どもたちが安心して学 校生活を送るためにも多様性(みんな違う)を受け入れ、 違いを認め合える支持的風土の醸成を図ってきた。 違いを認め合うこと、自他の命を大切にすることは継続 して適宜、指導していく。今後も児童の心の声を見逃さな いためにも、日常の対話や、各学期に実施するアンケート を通して、豊かな心を育てていく。	A	A
	② 場に応じた挨拶や、言葉遣いができるような指導を心がけることができたか。	B どのような挨拶がその場に適しているか、挨拶の意味も 指導することを大切にしてきた。気持ちのよい挨拶をする ことは「自他を認めること」「相手を大切にすること」に もつながるという指導もしてきた。そして、子どもたちが 主体的に元気に挨拶をしたり、相手を思いやる言葉で話し たりすることができるようになることを目指し続け、次年 度も継続して学級指導をしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・昨今の傾向として、承認欲求が強いあまり、自己顕示に走り、他者からの目線や他者への目線を忘れがち子どもが散見される。他者との違いに気付き、認め合う教育の大切さを意識した教育に期待する。</p> <p>・学校生活の中で、子どもたちが自己の特性を理解し、より深い人間関係を築いてもらいたい。学校は子どもたちが自分らしくいられる場所であってほしい。</p> <p>・互いを認め合える子どもたちになることを期待します。</p> <p>・挨拶はしっかりできているように感じた。なぜその場面でその挨拶、その言葉が出てくるといいのか、という根本のところの指導が行き届いているのだと思う。</p>			

達成状況はA(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)・D(一層努力を要する)の4段階

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	成果及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな体の育成	① 体育の授業以外(休み時間など)でも、進んで体を動かすような働きかけができたか。	B 休み時間、体育館やグラウンドで体を動かす子どもたちは多い。「走り方教室」や「森グルチャレンジ」で長縄跳びを実施した際には、体育の時間だけでなく休み時間にも取り組む児童が増えた。また、夏はドッジボールコート、冬はチューブ滑りなどを取り入れることで、年間を通して体を動かす楽しさを感じている姿が見られている。 次年度も、自分から体を動かしたくなるような、場の設定を工夫し、体力の向上を図っていきたい。	A	A
	② 適宜宿題を出したり、早寝早起きの大切さを意識させたりするなど、生活習慣を整える指導ができたか。	A 8:25までに登校し、朝の身支度を済ませ、落ち着いて朝読書に取り組むことを徹底し、学校生活スタートのリズムを整える指導を大切にしてきた。その際に、早寝早起きの大切さ等も指導し、自分で生活習慣を整える子になれるようにしてきた。 学校生活とリンクさせながら、家庭での生活リズムも整えるよう指導するとともに、保護者への情報発信も継続して続けていきたい。	A	A
	③ ルールやマナーを守ってクロムブックを使う指導ができたか。	B 危機管理指導の徹底という点で、「情報モラル教育」をどの学年でも実施した。安全なICTの活用が、子どもたちの健全な心身につながっていく。便利なものだからこそ、守るべきことを守り活用する力を高めるとともに、ICTの活用について保護者とも共有し、学校と家庭で子どもたちのネットモラルを見守り、指導し続けていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・体力低下にならないよう、自然に子どもたちが体を動かす動かしたくなるような環境を作ってほしい。</p> <p>・限られたスペースでの活動ではなかなか結果をすぐに期待するのは難しいかもしれないが、努力を期待する。</p> <p>・8:25登校の意味はとても大切だと思う。これに家庭との連携も大切である。朝学習の様子や内容を更に発信し続けてほしい。</p> <p>・ICT活用と情報モラル教育は今後最も大切になるのではないかと。アルゴリズムやエコーチェンバーについてもきちんと教育していく必要を感じる。</p>			